

読書推進運動

No.678

★野間読書推進賞 候補者推薦のお願い(2頁)
★2024年度 定時総会開催のお知らせ(3頁)


 公益社団法人
読書推進運動協議会
 〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町1-32
 出版クラブビル6階
 TEL 03(5244)5270
 FAX 03(5244)5271
 発行人 佐々木 泰
 編集人 片岡 伸子
 定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる



学ぶ姿勢が継続の力

野間読書推進賞へのご推薦を！

公益社団法人日本図書館協会
図書紹介事業委員会委員長・
野間読書推進賞 選考委員

あきもと さとし
秋本 敏

私は、若いころ自宅を開放して家庭文庫をやっています。私の子どもをふくめ近所のちびっこが毎週集まり、読み聞かせ、貸し出し、餅つきやクリスマス会など楽しい日々を過ごしてきました。親同士では、文庫の運営会議、絵本の買い出し、そして飲み会など家族ぐるみの交流をしてきました。そんな経験もあって、野間読書推進賞候補者のさまざまな活動がとても身近にそして懐かしく感じられます。同時にその喜びや苦

労も肌感覚で伝わってきました。私が選考会ごとに感心するのは、活動歴の長さです。我が文庫では、5年ほどで終えてしまいましたが、20年や30年はあたりまえ。なかには

2022年度に受賞された「近江八幡おはなし研究会」(滋賀県近江八幡市)のように60年以上もの長きにわたり活動を継続しているもの。個人では渡邊満洲子さん(愛知県設楽町)の50年を超える活動があります。長い活動歴をもつ団体・個人では、かつて読書活動に参加した幼児が親となり、親もまたその子どもたちも読み聞かせに参加していきま

す。こうした長い活動歴は、団体では後進の育成が要となります。同年度受賞の「萌えぎの会」(群馬県前橋市)では、後進の育成のため外部研修会へ積極的に参加しています。

2023年度受賞された原田紗千子さん(長野県大桑村)は、教員を早期退職後に大学で図書館学を修め、家庭文庫開設や長野県木曾地域全体の講演会講師を務めるなど、子どもの読書活動の推進にかかわり続けています。団体も個人もたゆみない学びの姿勢が継続の力となっています

秋本敏さんは、昭和時代の街頭紙芝居の実演をやっています。子ども向け紙芝居、大型紙芝居などは多くの団体・個人で実演されていますが、館玉をしやぶりながら「黄金バット」など昭和の紙芝居の実演しているのは稀有な例です。ちなみに賞の贈呈式には当時の衣装を纏った鹿兒島さんが街頭紙芝居を実演。昔懐かしい紙芝居の語りに会場は興奮と笑いにつつまれました。

最後に、推薦者の方に推薦書作成にあたりお願いしたいことがふたつあります。

①読書活動の様子だけでなく、子どもたちや地域などへの効果・影響などを記述していただきたい。
②チラシ、写真、会報など活動内容が具体的に把握できる資料があると助かります。

賞の選考は推薦書をよりどころに行います。以上の二点について留意されていたければ、よりよい推薦書となります。よろしくお願いいたします。

第54回(2024年度)

『野間読書推進賞』

受賞候補者推薦のお願い

公益社団法人 読書推進運動協議会は、読書の普及に貢献し、讃えられるべき業績をあげながらも、報われることの少なかった個人および団体を顕彰してきま



野間読書推進賞賞牌

この賞は、1969年、当協議会の社団法人設立を機会に、野間省一 講談社社長(当時)より1000万円の寄付を受け、1971年に「読書推進賞」を設定、1979年に講談社創業70周年記念として1000万円、1987年と2023年にそれぞれ、2000万円の寄付を受け、その基金を中心にして運営しているものです。「読書推進賞」は、1985年より、「野間読書推進賞」とあらためました。

本年度も次に掲げる要項にしたがって、実施いたします。みなさまからのご推薦をよろしくお願いいたします。

体を再度ご推薦くださってもかまいません。

4 推薦方法

- ① 全国都道府県および政令指定都市教育委員会
- ② 都道府県中央図書館および読書推進運動協議会
- ③ 全国市町村教育委員会連合会
- ④ 日本PTA全国協議会
- ⑤ 日本新聞協会
- ⑥ 日本放送協会
- ⑦ 日本民間放送連盟

などに候補者推薦を5月中旬に依頼します。

受賞候補者の心当たりがある方は、団体を通してご推薦ください。

これまでの受賞者一覧、昨年度の受賞者業績は、当協議会ホームページ(<http://www.dokusyo.org.jp>)でご覧いただけます。ご推薦の参考としてください。

5 推薦用紙

当協議会指定の用紙をお使いください。推薦用紙および要項をご入用のときは、当協議会にご請求ください。(Word, Excel形式のファイルもごさいいます)。添付資料は返却にも応じます(希望者のみ)。

6 推薦書類送付先、締切

公益社団法人
読書推進運動協議会

「野間読書推進賞」係
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町

1-32 出版クラブビル6階
TEL 03-5224-1527 0
推薦締切
2024年7月26日(金)消印有効

7 受賞者決定まで

推薦締切後、8月下旬に野間読書推進賞運営事業委員による選考準備委員会にて候補者を絞り、9月中旬に3名の選考委員からなる選考委員会で、団体の部、個人の部と、必要が認められた場合は奨励賞の受賞者を決定します。

各賞の受賞者は、原則として2団体(2名)以内とします。

8 選考委員(五十音順)

秋本 敏 公益社団法人 日本図書館協会 図書紹介事業委員会 委員長
黒木義博 公益社団法人 全国学校図書館協議会 読書活動プロジェクト担当

野上 彰 児童文学・文化研究家
一般社団法人 日本国際児童図書評議会 副会長

9 結果の通知

受賞者決定後、受賞者とその推薦団体へ、すみやかに通知します。また、すべての推薦団体に、選考

結果を文書にてお知らせします。
10 贈呈式
2024年11月7日(木)
出版クラブホールにて(予定)
出版界、図書館界の関係者(団体)、これまでの野間読書推進賞受賞者、『読書推進運動』執筆者のみなさんなどをお招きします。



昨年度受賞者、推薦者のみなさんと野間会長、選考委員

昨年の贈呈式の様子を、当協議会ホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。

2023年は、贈呈式後の記念パーティーを4年ぶりに開催いたしました。本年も、これまでの受賞者のみなさま、関係者のみなさまのご参加を、心よりお待ちしております。

「読書週間」「こどもの読書週間」を
応援してください!



読書推進運動協議会の クラウドファンディング 5月24日(金)までです!

の製造コストや各種経費は増加、結果として法人としては慢性的な赤字状況となつています。ちなみに2023年度の決算は75万円程度の赤字となりそうです。

このままでは「こどもの読書週間」「読書週間」を主催し、継続的に運動を推進するのが難しくなるという危機感を抱くにいたり、今回クラウドファンディングを実施いたしました。左記にアクセスいただいで、ぜひ「こどもの読書週間」の未来のために寄付をいただきたいとお願ひ申し上げます。

5月7日時点での寄付は、約20万円となっております。当協議会の公式Xもご覧いただき、拡散のご協力もお願いいたします。

- クラウドファンディング期間 2024年5月24日(金)まで
- クラウドファンディングページ <https://camp-fire.jp/projects/view/750728>
- 読書推進運動協議会公式X <https://twitter.com/dokushinkyoy1959>



クラウドファンディング QRコード



公式X QRコード

「読書週間」を長きにわたつて主催してまいりました。運営には多額の費用がかかりますが、その原資は出版、図書にかかわる会社さまや団体さまからの会費収入です。残念ながら会費数はすこしずつですが減少傾向にあり、反面、昨今のインフレ傾向により制作物

2024年度公益社団法人読書推進運動協議会 定時総会開催のお知らせ

公益社団法人 読書推進運動協議会では、左記のとおり2024年度の定時総会を開催いたします。

- 一、日時 2024年6月27日(木) 午後3時~4時30分
- 一、場所 出版クラブビル会議室 (東京都千代田区 神田神保町1-32)

03-5577-1511

- 一、議事
 - ・第1号議案 2023年度事業報告書と決算報告書承認の件
 - ・第2号議案 2024年度事業計画書と収支予算書報告の件
 - ・連絡事項
- *5月下旬に、議案書と出欠はがきをお送りします。はがきのご返

絵本で地震被災地への 想いを届けるリストを発表

絵本を中心として読書活動にかかわりのある人々の横のつながり(ネットワーク)創りを目指す団体「絵本図書館ネットワーク(佐賀県武雄市)」は、3月18日、123冊の絵本リスト「被災地に届けたい絵本」を復興へ「1、2、3」を発表した。

このリストは、今年1月の能登半島地震の被災地へ「絵本を通じて想いを届けたい」と企画。1月



「被災地に届けたい絵本」リスト



出版クラブビル (東京・神保町)

信と当日のご参加、または委任状のご提出を、よろしくお願ひ申し上げます。

同ネットワークは期待している。リストのPDF、掲載書目一覧は、同ネットワークのホームページで確認できる。

●絵本図書館ネットワーク
ホームページ
<https://ehon-hib.net/>

■JBBYが記者会見を開催

国際アンデルセン賞と50周年記念事業を発表

今年、創立50周年を迎える、一般社団法人 日本国際児童図書評議会（JBBY）は、4月19日（金）記者会見を行い、50周年記念事業と、今年の国際児童図書評議会（JBBY）の国際アンデルセン賞受賞者を発表した。

JBBY会長の宇野和美さんは、「子どもの本を通して平和を願う」JBBY・I BBYの理念と活動を紹介。子どもの本を通じて文化・国境を超えてつながることが、希望につながると語った。「小さなノーベル賞」とも称される国際アンデルセン賞は、2年に1回、ポロニーブックフェア（イタリヤ）で発表される。今回は作家賞をハインツ・ヤーニツシュ（オーストリア）、画家賞をシドニー・スミス（カナダ）が受賞した。JBBYは今年のポロニーブックフェアに国際交流基金と共同でブースを出展し、大きな反響を得たこと、日本の児童書、特に独立系出版社を紹介できたことから、今後も海外に向けて日本の児童書・絵本の情報を発信していく。

また、50周年を記念して、すでに国内で各種イベントを開催し、今後も各種企画が予定されていると発表。特に、11月16日（土）の「国際シンポジウム『今、子どもの本は世界とどうかかわるのか』」には、石瀬成子さん、長倉洋海さん、さくまゆみこさんが登壇するだけでなく、国際アンデルセン賞受賞作家をはじめとする世界各国の作家たちがビデオで出演する（予定）。

そのほかにも、50周年記念連続講座「日本の国際アンデルセン賞受賞作家たち」を5〜10月にかけて実施し（本紙67号に詳細）、国立国会図書館国際子ども図書館と共催で「国際アンデルセン賞受賞作家・画家展」を10月1日（火）〜12月25日（水）に開催する。「50年史」や、毎年発行しているブックガイドからの選りすぐった推薦本リストの単行本の発行など、記念出版も予定されている。イベントの参加方法や詳細はホームページを参照。
●JBBYホームページ
<https://jbbj.org/>

■「子ども読書の日」記念子ども読書活動推進フォーラム

4月23日「子ども読書の日」に優秀な読書活動を表彰

文部科学省と国立青少年教育振興機構は4月23日（火）、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）で、「令和6年度『子ども読書の日』記念子ども読書活動推進フォーラム」を開催し、今年の子どもの読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人）として合計263件を文部科学大臣表彰し、特別講演と事例発表・対談を行った。

先人の生き方、価値観、志に触れることができる」と紹介し、人は本を読むことで、好奇心と向上心にあふれ、自然と人生の目標が生まれてくると語った。

特別講演は、喜多川泰さん（作家）の「読書のススメ」。「子どもたちに本を勧めたくて作家になった」という喜多川さんは、「本での情報の共有、地域の民話・文化の継承などについての特色ある取り組みが披露された。事例発表者の展示コーナーでは、写真や子どもたちの感想など、発表に取まきりなかつた資料を見ることができた。



事例発表者の活動展示コーナー

また、文部科学省は4月16日（火）、「子供の学び応援サイト」特設ページの「子供の読書キャンペーン」にきみに贈りたい1冊」でキャンペーン第4弾を発表した。このキャンペーンは、昨年10月より今年にかけて4回にわたつ

て、不読率の高さが目立つ中学生・高校生を対象に「著名人のおすすめ本と子供たちへのメッセージ」を紹介するもの。

最終回となる今回は、網本麻里さん（車いすバスケットボール選手）、ウエンツ瑛士さん（俳優・タレント）、国枝慎吾さん（元車いすテニスプレーヤー）、汐見夏衛さん（小説家、水卜麻美さん）日本テレビアナウンサー）、三阪洋行さん（日本パラリンピック委員会アスリート委員会委員長）、山中伸弥さん（京都大学iPS細胞研究所名誉所長・教授）の7人による図書紹介となっている。

文部科学省では、紹介図書・メッセージチラシの掲示や、キャンペーンページへのリンクの活用を呼びかけている。リンクは申請不要だが、文部科学省ホームページへのリンクであることの明記が必要。詳しくはキャンペーンページ（https://www.mext.go.jp/a-menu/ikusei/gakusyushien/campaign_2023.html）を参照。



キャンペーンリンクバナーとQRコード

国際子ども図書館で講演会開催

科学者、科学の本の楽しさを子どもたちに届けるために

4月27日(土)、東京都台東区の国立国会図書館 国際子ども図書館で、「科学の本に親しむーハンガリー出身のノーベル賞受賞者カリコー・カタリン氏をめぐってー(主催ー同図書館/駐日ハンガリー大使館)」が開催された。

会場には、ハンガリー大使館が提供した、カリコーさんを紹介するシートが展示された。主催者あいさつでセンドレイ・ティボル・チャバ 駐日ハンガリー特命全権公使は、講演会開催への謝辞を述べ、苦難を勤勉さと強い意志で乗り越えてきたカリコーさん

を「敗者の勝利」と讃えた。同図書館館長の上保佳穂さんは、「コロナで中断していた各国大使館と共催のイベントを久しぶりに開くことができ、うれしい」と語った。

最初に行われた「ハンガリー紹介クイズ」では、ハンガリー大使館職員がハンガリーの地理や文化、歴史から出題。正解者には、同大使館からハンガリーゆかりのルービックキューブが贈られた。

同図書館職員による「カリコー・カタリン氏の業績と関連児童書の紹介」では、2023年にノーベル生理学・医学賞を受賞したカリコーさんの受賞理由とその業績をわかりやすく解説。「科学の本を子どもに手渡すとき、科学そのものの楽しさを伝えてほしい」と述べた。また、同館所蔵資料から、関連児童書・絵本が紹介された。

講演のひとつめは、ジャーナリスト 増田ユリヤさんの「カタリン・カリコーノーベル賞受賞までの道のり」。カリコーさんと交流があり、関連書も多い増田さんは、

「ハンガリー紹介クイズ」では会場中から手が挙がった



「ハンガリー紹介クイズ」では会場中から手が挙がった



講演後、質問に応じる竹内薫さん(左)と増田ユリヤさん(右)

カリコーさんから提供された写真や子ども時代のエピソードから、その人となりを紹介。子ども時代に超一流の科学者と交流したことが、カリコーさんの科学者への憧れをかきたてたことなど、恩師の存在の大切さなどが語られた。

ふたつめは、サイエンス作家 竹内薫さんの「子どもたちが翻訳に挑戦するとき『カタリン・カリコの物語』」。竹内さんは自身が主宰するフリースクールの授業で、『カタリン・カリコの物語』を子どもたちが翻訳し、西村書店から出版したことを紹介。「子どもたちがみな、カリコーさんの人生に興味を持った。本をカリコーさんに送ったら子どもたちへメッセージが届いた。彼女が子どもたちのロールモデルとなった」と語った。

「ロウソクポツ！もひとつポツ！これからはじまるおはなし会」こんな手遊びではじまるカンガルー読書会。乳幼児、児童を対象に1997年12月10日。松谷みよ子『いないいないばあ』、わかやまけん『しろくまちゃん』のほつとけいき、なかがわりえこ・やまわきゆりこ『ぐりとぐらのおきやくさま』、そして、紙芝居『みんなでみんなでかくれんぼ』の4つが、カンガルー読書会が最初に読んだ作品でした。

優良読書グループの歩み (5)
2023年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。(順不同)

カンガルー読書会

代表者 阿部千佳子
宮城県多賀城市
(推薦)

宮城県読書推進運動協議会

「ロウソクポツ！もひとつポツ！これからはじまるおはなし会」こんな手遊びではじまるカンガルー読書会。乳幼児、児童を対象に1997年12月10日。松谷みよ子『いないいないばあ』、わかやまけん『しろくまちゃん』のほつとけいき、なかがわりえこ・やまわきゆりこ『ぐりとぐらのおきやくさま』、そして、紙芝居『みんなでみんなでかくれんぼ』の4つが、カンガルー読書会が最初に読んだ作品でした。
当初は、絵本の選び方、読み方、会場作り、参加者との接し方など、試行錯誤だったようです。とくに気を配っていたことが本選び。今日、来てくれた親子にとつてはじめて出逢う絵本になるかと思うと、なんでもよいというわけにはいかない!! という思いは、今も引き続き大切にしていることのひとつです。そして、「カンガルー読書会」というサークル名には、カンガルーがおなかの袋で子どもを大切に育てるように、子どもたちの成長を見守り、あたたかい時間を絵本と一緒に楽しみたいという思いが、こめられています。
当時、スタッフふたりきりでのスタートも、現在では私が3代目の代表となり、かつて親子で参加していた方々10名で活動しています。講演会への参加、ほかの団体の方々との交流を生かしながら、自分たちの会がより親子にとって楽しみの場所となるよう、年に一度ではありますが、ペーパーサートやパネルシアター、ハンドベルなどのお楽しみ会を開催しています。日々スキルアップも目指し、自分たちも楽しみながら、子どもたちにも楽しんでもらいたいと活動しています。

大震災を乗りこえ、これ
からも絵本とともに



白樺読書会

代表者 稲垣 和子

埼玉県秩父市

〈推薦〉

埼玉県読書推進運動協議会

白樺読書会は、1988年春に
発足しました。途中、2名の入退
会の動きがあり、現在は7名の会
員です。平均年齢は70代後半、女
性のみです。

毎月第3木曜日、2時間の活動
です。活動日には借りた本の感想、
世の中の話題ばなし、料理の作り
方などの情報交換を、にぎやかに
おしゃべりしています。

当番の人は、次回活動日の部屋
の予約、貸出本の受け取り、返却
をします。

貸出本の予約も、6か月ごとに
新着案内本を参考に申し込むのが
大切です。

このごろの若者のことは、考え
方に置き去りにされないように、
新しい本もがんばって読んでいま
すが、ときには、書庫入りにいま
る名作や文学小説を注文していま
す。今までのべ450冊ほど、読ん
だことになりました。

親睦を深めるために、京都、篠

島温泉(愛知県)、会津探訪、芦
ノ牧温泉など一緒に旅したり、文
学散歩(東京都文京区小石川)や
観劇会、季節の食事会、ランチな
ど楽しく和陸しつつ、今日にい
たっています。

読書でない体験することがで
きない、さまざまな職業を知り、
生き方、考え方も学びました。子
どもから高齢者まで、はげしい年
齢層の人たちと、話題が豊かにな
り、会話を楽しめるようになりま
した。これが、話し上手、聞き上
手の一歩かもしれません。

白樺の歩みを文章にすることは
が、35年間をふり返るよい機会と
なりました。積み重ね、継続、仲
間との助けあい、励ましあいのあ



親子2代の会員もいる
息の長い読書会

りがたさを痛感しています。
読書会のような集まりを多くの
人たちが知り、図書館を利用して
ほしいです。

この会には親子2代にわたつ
て、利用している会員がいます。
私たちもその人を見習って立ちあ
げました。

今日思うことは、本と読書会
場を貸してくださった図書館、い
ろいろな場面で協力してくれた各
会員の家族に感謝しています。

今後は、健康や視力の不安がで
てきましたが、励ましあいながら
なかよく、楽しく、長く続けられ
ることを願っています。

朗読ボランティア 「しゃぼん玉」

代表者 松原 逸子
松尾 陽子

徳島県美馬市

〈推薦〉
徳島県読書振興協議会

私たち朗読ボランティア「しゃ
ぼん玉」は2000年に始まる美
馬市主催の朗読講習会を6か月間
受講したのを契機に、2001年
2月1日に活動を開始しました。

町内の保育園や幼稚園、一部の
小学校への絵本の読み聞かせから
はじまり、現在は合併後の美馬認

定ことも園と美馬小学校で、各学
年毎月1回の読み聞かせを継続し
ています。

また、社会福祉協議会から依頼
を受け、毎月発行される美馬市の
広報や「ふくしの木」等の冊子を
録音し、目の不自由な方へ音声と
してお届けしています。使用後の
CDは美馬市立図書館に置かれ、
どなたでも聞くことができるよう
になっています。図書館では奇数
月の第4土曜日に、来館する子ど
もに絵本の読み聞かせも行つてい
ます。

こども園へ読み聞かせに行く
楽しみに待っていてくれ、絵本の
中の細かい所までよく見ていて、
ときに思いがけない発想のことは
をかけてられて驚かされたり、新
しい気づきをもたらすことが
あります。園児たちの活発なエ
ネルギーはいつも私たちに力を与
えてくれます。

毎月第3水曜日の定例会でメン
バーが集まり、翌月の読み聞かせ
の担当を決めたり広報などの録音
をしています。メンバーそれぞれの
都合もあり全員がそろうことは
めったにありませんが、よれば近
況や知り得た情報、体調のことな
ど、話に花が咲き、親好を深めて
います。

これまで活動するなかで、存続
の危機もありました。東日本大震
災です。活動場所の大代地区公民
館やスタッフの自宅も被災し、や
る気、気力をなくした私たちに、
早く再開してほしい!!と多くの
親子の声が届き、みやぎ生協大代
店の集会室をお借りして再開しま
した。このときも、子どもたちの
笑顔に元気をもらいました。

多賀城市立図書館と大代地区公
民館のご理解、ご協力があるから
こそ、長きにわたり活動をでき
ていることに感謝し、これからもス
タッフそれぞれの持ち味を生か
し、参加してくれた親子が「大切
な本」に出逢え、見つけるお手伝
いのできたらうれいす。

活動を開始してから22年あまりが過ぎ、メンバーの平均年齢が74歳を越えました。立ち上げ当初は多勢のメンバーが参加していましたが、現在は会長1名を含む8名と、ときどき手伝つてくださる方が1名で運営しています。新メンバーが増えず苦慮しています。初期から「しゃぼん玉」を牽引してきた会長が体調を崩され、後を引き継いだばかりで、さてどのよう



新しいメンバーの参加を待っています！

しかしながら「絵本が持つ力」を信じ、子どもたちの純真な心の中に、やさしさや強さ、正義感、未来への希望のかけらが、ほんの少しでも根づいてくれることを願

い、会員一同、今後も活動を続けていきたいと考えています。

今回優良読書グループに推薦していただいたのを機に、気持ちを新たに絵本の読み聞かせに励みたいと存じます。

ありがとうございます。

おはなしもいっしょ

代表者 市川 和枝

長崎県五島市

長崎県読書推進運動協議会

「おはなしもこもこ」は、1998年4月に五島市立図書館ではじめての読み語りボランティアとして結成しました。当時は五

島へ転動してきた方がおまなメンバーだったため、毎年春になると別れと出会いを繰り返しました。現在は9人がほぼ地元メンバーで構成され、少人数ながらも年齢に縛られず和気藹々と図書館を中心に活動を続けています。

毎週金曜日の午前中をミーティングや練習、小道具の製作時間にあて、現在では五島の民話に関連する紙芝居製作にも取り組みました。世代が異なるメンバー同士が話題豊富に語り、聞き、笑いあ

い、にぎやかながらも、練習へ集めて役に足りなかった声を耳にすると、次はなにをやるのかと職員もワクワクします。

図書館で開催する定例のおはなし会では、絵本の読み語りを中心に、紙芝居、パネルシアター、エプロンシアター、ペープサート、わらべ歌、手遊び、軍手人形などのおはなしの小道具を使い、楽しいおはなし会になるようアイデアを盛りこんでいます。ほかにも、図書館まつりや、クリスマス会で、影絵やブックパネルシアター、巻絵、簡単な手品やクイズ

を行い、親子で楽しんでもらえるよう趣向を凝らしています。

図書館でのおはなし会にかぎらず、市内の保育園、幼稚園、小学校、高校、地区の子ども会、老人ホーム、お寺、なかには二次離島の学校から依頼を受け、船で移動することもありました。依頼があれば可能なかぎり対応するよう努め、依頼先の年齢、人数、時間、場所(どんな部屋)などを基にそれぞれに合ったプログラムを考え、ときには五島の民話を取り入れた工夫も行っています。

ブックスタートでは、対象となる4・5か月の乳児と保護者へブックスタートの説明と絵本の読

乳児から高齢者までを対象には幅広く活動中



み語りの手伝いを、市内の高校では生徒の保育実習向けに絵本選び方、読み方の講義と実習の講師を務め、実際にメンバーが紙芝居などの実演をし、生徒にも絵本の読み語りの実践を行ってもらいます。特別支援学校では小学校1年生から中学校3年生を対象に定期的なおはなし会を行っています。

毎回、次につなげるために活動記録を残していますが、なにより子どもたちの「おもしろかった」の声やうれしそうに喜ぶ顔が、達成感、満足感につながり、パワーをもらって、今後もみんなで楽しみながら活動を続けてほしいと思います。

「上野の森親子ブックフェスタ」開催!

5月4日(土)・5日(日)、東京都台東区の上野恩賜公園で、「上野の森親子ブックフェスタ2024」(主催)子ども読書推進会議/日本児童図書出版協会/一般財団法人出版文化産業振興財団)が開催された。

好天にも恵まれ、催事のメインである、謝恩価格での児童書販売子どもブックフェスティバルでは今年も多くの出展者が選りすぐりの本を出品し、家族連れが熱心に本を選ぶ姿がみられ、また、外国からの来場者も興味深く日本の児童書を手にとっていた。

サイン会や関連イベントも数多く実施され、2日間にわたり上野の森に子供たちの歓声が響いていた。詳細については、次号でお伝えする。



おはなし会などのイベントも多く開かれた

■紙芝居文化の会 講座

紙芝居の魅力を探る講座、群馬県で開催

紙芝居文化の会では、毎年、各地の実行委員会と共催で、紙芝居講座を開催している。今年も、群馬県渋川市で「紙芝居講座 in 渋川」を開催、現在、参加者を募集している。

●紙芝居講座 in 渋川「すてきな紙芝居の世界」その魅力の秘密

開催日・会場
6月16日(日)
渋川市中央公民館4階講堂

講師
松井エイコ(紙芝居文化の会 国内統括委員、壁画家、紙芝居作家) アドバイザー
中平順子(紙芝居文化の会 運営委員、子ども文化研究家)
講座内容
・絵本と紙芝居のちがいを
・紙芝居で平和を
・作品の選び方
・紙芝居の演じ方(講座終了後に)

■家の光協会 読書ボランティア講座

養成・スキルアップの2講座を用意

一般社団法人家の光協会は、「第21回家の光読書ボランティア養成講座」「第18回 同スキルアップ講座」をオンライン配信する。参加費無料。講座プログラムは以下のとおり。

【養成講座】初心者対象

・講演「読書ボランティアをはじめよう」根っこを育てるよろこびの共有」講師 近藤千春(児童文化実践講師、保育士)
・講演「読んで聞かせる絵本と演

じる紙芝居」その魅力とポイント」講師 いちかわけいこ(絵本作家、紙芝居作家)
・実践報告「地域にひろげる読書の輪」おはなし会と彩りの工夫」講師 萌えぎの会(群馬県前橋市)
配信期間 7月1日(月)～16日(火)
【スキルアップ講座】経験者対象
・講演「再発見! 絵本の魅力と読み聞かせの魔力」子どもたちの想像力を広げよう」講師 さいいと

実演体験あり)

*紙芝居販売とサイン会も予定
参加定員は100名(先着順)。参加には事前の申し込みと受講料・参加費が必要。申し込み締め切りは6月2日(日)。詳細は、紙芝居文化の会まで。

紙芝居文化の会では、紙芝居の魅力や選び方、実演についての学びの場を希望する団体、施設への講師派遣にも応じている。詳細は同会事務局まで(ホームページ参照)。
●紙芝居文化の会ホームページ
<https://www.kamishibai-ikajia.com/>

うしのぶ(絵本作家)
・講演「知りたい! 読書バリアフリーの世界」一人ひとりの読書を応援」講師 村上支(旬読書工房)
・実践報告「あなたも挑戦! 読書へのアニメーション遊びを通して子どもの心をはぐくむ」講師 高柳啓子(山梨県甲州市立勝沼図書館司書)

配信期間 7月8日(月)～22日(月)
期間中は何度でも視聴可能。
申し込み方法など
詳細は下記の二次
元コードまで。


事務局報告(4月)

- ☆4日 岡部公認会計士事務所 2023年度決算資料作成
- ☆5日 機関紙「読書推進運動」677号別冊「第74 読書週間行事報告」一覧入稿
- ☆8日 機関紙「読書推進運動」677号入稿、別冊「書責」
- ☆9日 機関紙「読書推進運動」677号「書責」
- ☆10日 学校図書館整備推進会議・総会出席(出版クラブ)
- ☆11日 吉川英治賞・贈呈式出席(帝國ホテル)
- ☆15日 機関紙「読書推進運動」677号別冊「書責」
- ☆16日 第29回「日本絵本賞」最終選考会出席(出版クラブ)
- ☆19日 JBBY50周年企画記者発表出席(出版クラブ)
- ☆17日 3名の監事による2023年度会計監査実施(19日)
- ☆20日 5月24日「読書協クラウドファンディング実施
- ☆22日 上野の森親子ブックフェスタ2024 運営委員会 最終打ち合わせ出席(JP1C)
- ☆23日 2024年度 第1回 常務理事会 開催
- ☆23日 5月12日 「第66回 こどもの読書週間」
- ☆23日 文部科学省ほか「子どもの読書推進フォーラム」出席(国立オリンピック記念青少年総合センター)
- ☆27日 国立国会図書館国際子ども図書館「科学の本に親しむ」出席

●編集部&事務局のひとこと

●4月のなかば、親子読書地域文庫全国連絡会「親地連より、元代表の広瀬恒子さんの計報が届きました。昨年10月の親地連全国交流集会では、力強い声とメッセージで会場をわかせていらしただけに、急なことと驚いています。

●私がこの事務局勤務となり、読書推進運動のこれまでと現在を学ぶなか、広瀬さんのお前はいつもその中心にありました。親地連の全国交流集会での其調報告では毎回、最新の子どもの本について、あたたかく厳しく論じられ、その読みの深さと子どもたち・文庫・図書館・学校図書館の現状を見渡す広い視野に敬服してきました。

●「すべての子どもに読書のよここびを」を掲げてきた親地連の50周年記念誌に広瀬さんはこう書いています。「考えてみると、読書というのは極めてパーソナルなものとみえては、それが何故「うちの子」だけではく「すべての」と願ったのだろうか。それは、読書のもたらす「ちから」を、どの子どもにも持つてもらいたいと願ったからではないか。…(中略)「絶対望たのではない、どのような過酷な状況のもとでも生き抜こうとする「力」を失わないでほしい」という願いだ。その力は何によって支えられるのかと考えると、それは人間の想像力によってであろう。」

●生涯をかけて、子どもと本に向きあってきた広瀬さんのことばと願いが、あの張りのあるお声で聞こえてくるようです。もつともつと、学ばせていただきました…。(伸)